

戦後80年 チャンギから考える

未来のための

過去との付き合い方



遺族から関口氏への手紙
【資料提供: 明長寺】



戦犯とされた人々が処刑されたチャンギの絞首台
【写真提供: AUSTRALIAN WAR MEMORIAL】



田中氏が書き写した、戦犯とされた人々の遺書
【写真提供: 照栄院】

令和7年 6月14日(土)~7月13日(日) **入場無料**

毎週月曜日と6月17日(火)は閉館

開館時間: 午前9時~午後5時

世界有数の空港で有名なシンガポール・チャンギには、植民地支配の時代、イギリスにより刑務所が作られました。チャンギ刑務所は、戦時中、シンガポールを占領した日本軍によって捕虜収容所として使われ、戦後は日本の戦犯を裁判にかけ、処刑する場所として使われました。

平和館では、戦後80年の節目に、様々な痛みの集合的記憶を持つ、チャンギ刑務所を視点としたミニ企画展を開催します。

戦犯の教誨師を務めた故関口亮共氏(戦後に川崎区、明長寺住職)と、田中日淳氏(戦後に大田区、照栄院住職)が遺した、戦犯として裁かれた人々や遺族との間で交わされた書簡、戦犯となった人々の遺書の写しなどを展示します。

併せて、現地の人々から見た日本軍占領時代のシンガポールについての概説も行い、未来の平和を作るための、様々な痛みの集合的記憶とのつき合い方を、来場者とともに考えます。



川崎市平和館

川崎市中原区木月住吉町
33-1

TEL: 044-433-0171
FAX: 044-433-0232

【交通】

JR線・東急線「武蔵小杉駅」東急線「元住吉駅」から徒歩約10分